

臨床腫瘍多職種研修会アンケート

開催日時：令和8年6月4日（木）18時～19時

回答人数	65人
参加人数	89人
回答率	73%

◆職種について

医師(3人)、薬剤師(1人)、看護師(56人)、
その他（理学療法士2人、保健師1人、事務2人）

◆研修会の評価について

	全く良くなかった	あまり良くなかった	普通	良かった	非常に良かった
研修会の日時や会場は、良かったですか。	0	0	2	25	38
	全く添っていません	あまり添っていません	普通	添っていた	非常に添っていた
この研修会の内容は、あなたのニーズ・期待に添っていましたか。	0	1	2	28	34
	全く理解できませんでした	あまり理解できませんでした	普通	理解できた	非常に理解できた
この研修会のねらい、内容について理解できましたか。	0	0	8	22	35
	全く役に立たない	あまり役に立たない	普通	役に立つ	非常に役に立つ
この研修会で学んだことは、日頃の業務の中で役に立ちますか。	0	0	3	24	38

◆研修会を受講されてのご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・対話によって関係性を築いていくことは、終末期に限らず診断時から大切。その過程が、終末期をよりよく過ごすことにも繋がるのではないかと思った。
- ・急性期の環境で難しいこともありますが、支援の手段を準備しつつ、介入のタイミングは相手が決めることを実践したいと思いました。
- ・実際の臨床での終末期の患者さんとの関わり方、大切なものに気づくというプロセス、とても勉強になりました。
- ・その人らしさが保てるような関わりができるようにしたいと感じた。そのための関わりについて、講義の中で参考となる点が多くあったので取り組みたい。
- ・自宅で最期を迎える方々の写真がとても印象的であり、自宅で過ごしたい理由や目標があるのだなと感じた。自宅で過ごす中で、人生の振り返りや改めて気づくことがあり、私たちはそれに寄り添って共感してできることをしたいと思った。
- ・山田先生のチームで共有できる形にしていくというところが、すごく大事になってくると感じた。病棟でのカンファレンスで活用していきたい。
- ・どのように客観的な評価をしようか、ゴールはどこにあるのだろうかという風な思考になっていたが、常に行動ベースでそこにつながる情報を集めるために行うための評価であり、その評価がチームで共有できるために客観的な情報に落とし込む必要があると感じました。つまり、ただ一点の結果よりも、過程の中にどのような介入を行えたかということが大事なのだと思います。
- ・患者さんに嫌なこと、やりたくない事を聞くということや、最後はみな気付くことができるため、無理に聞き出そうとしないなど、とても勉強になりました。参加できて良かったです。
- ・客観的に評価できるよう、患者さんの表情や言葉をそのまま記録に残して、チームで患者さんをケアできるようにしていきたいと思いました。また、待つ姿勢を大切に、その人が人生を振り返り大切なものに気づけたときには、それを話していただけるような関係を築けるよう関わりたいです。
- ・数値化は難しいが、その人にとっての良い終末期についての視点が広がった。
- ・価値観引き出していきたいと思った。もっと患者さんと話したくなった。

- ・救急の場面で、急に家族や本人の終末期になってしまうポイントの場面も沢山あるため、少ない時間でその人らしく暮らせるよう、急性期の場面でも介入できる、コミュニケーションの取り方などが分かって良かった。
- ・その人にとってのよりよい終末期について、実際に訪問看護の時に対応された時の講演を聞かせていただき、看護師としても、自分の家族の終末期の事も思い出され、自分自身気づかされる事が多くあり、とても学びの多い講演でした。
- ・緩和ケアの現場におられる先生方の講義は、とても参考になりました。病棟で状態が悪くなってきた患者に対して、どうしても意思決定を急いでしまうところがありますが、まず関係性づくりから大切に関わっていきたいと思います。
- ・ACPは国が進めているが、実際は一般人に認知もされておらず、概念がわかりにくく、現場でも難しく困っていることで、何かヒントがあればと思い参加した。同じようにみんな困っているという事が分かった。それに、終末期の方に気づいてもらうとか、気づかせるとか、医療者が思うことは、とてもおこがましいような気がしました。
- ・関係性を築くには、時間が必要だということを再認識した。焦らず待つことが大事。
- ・患者さん、ご家族との信頼関係を築くことが、まずは必要で重要なことだと改めて感じた。1人1人考え方や受け止め方、価値観、希望等異なるため、関わりの中からその人の思いを感じとっていくことも大切だと感じた。
- ・大変参考となる内容の講演でした。ありがとうございました。
- ・終末期の患者さんに希望だけでなく、嫌なことを教えてもらうことが大切だということを学べて良かった。
- ・本人や家族の価値観を大切にしていきたいなと改めて感じました。その価値観を知る方法として思いや、希望を少しずつでも表出してもらえよう、患者さんとそのご家族の方との会話を大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・患者さんの本音、価値観を引き出し、チームで共有していくことの大切さを改めて感じました。日頃の関わりを大切にしていきたい。
- ・患者さんの大切にしていることを引き出すような関わりを実践していきたい。情報をスタッフと共有することの大切さも学んだ。
- ・終末期の患者と関わるにあたってしたいこと、食べたいものなど希望を聞くことはしていたが、反対にして欲しくないこと、嫌なことが何かを知ることも重要だとわかった。
- ・在宅での看取りの様子がよく分かり、納得する部分が多く、また知らないことを知ることができた。緩和ケア病棟や急性期病院で亡くなる場合、それぞれの場ではどのような状況なのかについても知りたい。また、在宅に移行できないケースもあると思いますが、その要因と対応などについても知りたい。
- ・患者さんへの関わり方を学ぶことができた。
- ・緩和ケアの客観的評価=情報を共有できるカタチにして次の行動を考えれる、繋げれることということ、それを大切に意味がよく分かった。
ありのままの言葉で記録を残す。
知識や経験があると自分なりに解釈しようとしていたりしてしまうように思うため、気を付けようと思った。
- ・終末期において、医療者は先が見えてしまうばかりに急いでしまうことがあるが、あくまで主役は患者さんと御家族であり、私たちはいつでも支援ができる準備をしておくことが大事だと改めて感じました。
終末期だけでなく、治療中の患者さんとの関わりにも、通づることも多く学びになりました。
- ・終末期に、したいことや食べたい物など希望する事に焦点を当てるばかりではなく、嫌なことなどの話もきちんとすべきだということを知った。
- ・相手のニーズを汲み取る大切さを学ぶことができたように感じる。
- ・とても素晴らしいお話をありがとうございました。
- ・患者さんの価値観や希望を、自然な形で引き出せるようになれると良いなと思いました
- ・現状（病状）の理解が、家族と医療者間でギャップがあり、残された時間を考えて、医療者は焦ってしまうことが多々あり、どのように伝えたらよいか？と悩んでいました。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・医療の進歩やAIなどの導入がある中で、ひとの思いや価値観に寄り添った、ひとでなければ出来ないことの大切さを感じました。
- ・価値観を探っていくときに、嫌いな事や嫌な事、してほしくないことを聞くことも方法の一つであることが、大変大きなヒントになりました。山田先生の評価についても明日から使えらると思いました。
- ・終末期、緩和ケアに移った患者に対して、日頃からどのように接したらいいか、どのようなことを考えながら話をするのか学ぶことができました。
- ・自分のこれまでの看取りの経験を振り返る機会となりました。あの時どうしたらよかったんだろうというもやもやが、少し晴れた気がします。
- ・緩和ケアは奥が深い分、本当に興味分野です。
- ・良い終末期とは、その方が良かったと思えた時が良い終末期なんだと気づきました。価値観を大切に関わりたいと感じた。
- ・難しいテーマでしたが、講師の方々の説明が非常に分かりやすかったです。今後の診療に活かしていきたいと思います。

・今私が勤務しているのはGCUですが、興味のある内容だったので参加しました。今日の内容は、どの分野にも応用が出来ると感じました。GCUにも根本的な改善が期待出来ない対象者（奇形や染色体異常などの先天性疾患）が居ます。対象者本人は意思表示出来ないため、家族（保護者）に判断を委ねることになりますが、それぞれの家族の価値観は様々です。家族の表情、発言を良く観察し、会話から思いを探る。何を大切にするのか、逆に何をされると嫌なのか。電話対応や面会対応を、今まで以上に大切に。そして、家族と同じ方向（ゴール）へ向かって行けるように対話を重ねていきたいです。本日は貴重な勉強会を開催していただき、ありがとうございました。

・実際に在宅診療で緩和ケアに関わる医師、看護師、緩和ケア病棟で働く医師の話を知ることができ、終末期のケアについてどのように考え、どのように実施しているか学ぶことができた。

・それぞれの立場からの考えを、具体的に聞くことができ参考になった。日頃からの関わりを大切に、今後のケアにつなげていきたい。

・終末期の看護について悩むことが多く、今回の研修で、良い終末期とはというテーマについて考えることができた。緩和ケア病棟や在宅でのことについて、なかなか知る機会がなかったため参考になった。また一方で、病棟では告知されておらず、突如として終末期に突入する患者さんもおられ、そのようなケースでの良い終末期とはなにかということも、機会があればお聞きしたいと思った。家族と患者さんとの意見が異なり、寄り添えきれないときもあり、やるせないこともあるが、患者さんの自律心を信じて、日々の看護にあたりたいと改めて思えた。ありがとうございました。

◆あなたが研修会を開催される立場となった場合、今回の研修会で改善をしたら良いと考えられる点がありましたら、お聞かせください。

・17-18時にしてほしいというスタッフからの意見が多かったです。

・例を出してグループワークで考える。

・研修会の目的がもっと明確だとよいと思う。または、テーマを募集するとかどうですか？

・声が少し小さく聞こえた。

・もう少し近い距離で（もう少し小さい会場で）あったら、講師と参加者が近く、話しやすい（質疑応答しやすい）かなと思いました。

・スライドでも盛り上げたいと思います。

・対話型の研修にする。それぞれの先生が前半に講義を行い、各先生の講義の後（それぞれの講義の合間）に、テーマに沿って少人数でのグループディスカッション（それぞれが日頃体験したことや講義を聞いての気づき）を行い、さらにそれを全体で共有して、最後に講義の先生がまとめをする。